



Data

監督：ロブ・コーエン
出演：トビー・ケベル／マギー・グレイス／ライアン・クワンテン／ラルフ・アイネソン／メリッサ・ボローナ／ジェームズ・カトラー／ベン・クロス

■■ショートコメント■■

◆2018年は日本でも異常気象が相次いだが、アメリカでは近年、毎年のようにハリケーン被害が深刻になっている。本作は冒頭、ハリケーンに襲われて父親を失う2人の兄弟の姿が登場するが、この兄弟が大人になり、それぞれの分野で働いている今、アメリカの西海岸には史上最大規模、カテゴリー5のハリケーンが迫っていた。

他方、中国では今、キャッシュレス化が急速に進んでいるが、アメリカには財務省の管轄下に紙幣処理施設があり、そこでは今5億ドルもの旧紙幣の処分がされようとしているらしい。もちろん、この両者は何の関連性もないストーリーだが、なぜか本作ではそれが一体に！

◆最強の災害用特殊車両“ドミネーター”に乗る男が、気象学者のウィル（トビー・ケベル）。他方、施設のセキュリティを担当する女性がケーシー（マギー・グレイス）。この2人は本来何の縁もゆかりもない赤の他人だが、5億ドルの紙幣を処分しようとしている施設が強盗団に襲われたことによって、この2人が“華麗なる共闘作戦”を展開することになる。それを応援するのが、ウィルの兄のブリーズ（ライアン・クワンテン）だ。

ウィルとケーシーが応援を求めに行った地元の警察署長パーキンス（ラルフ・アイネソン）が強盗団とグルだったというのが導入部のミソだが、町民を町から強制的に避難させておき、その間に施設から5億ドルの現金強奪を企むとは、何ともはや・・・。

◆これだけの人数でこれだけ大規模な現金強奪作戦を執行するには、リーダーシップと共に連絡網が大切。しかして、強盗団の連絡網の形成は如何に？ハリケーンが吹き荒れる中、ドミネーターを運転しながら反撃作戦を練るウィルとケーシーの頭の中はその想定でいっ

ばいだったが、あるグッドな作戦を思いつくと、その後はそれに向けて一直線！

本作のチラシには「超巨大ハリケーン上陸×史上最悪の火事場強盗事件発生！災害も、犯罪も、前代未聞！！！」と書かれているが、まさにその通り。本作中盤の展開は迫力十分だ。

中国映画『超強台風』（08年）では主演となるスーパー市長の奮闘ぶりが際立っていた（『シネマ 34』354頁）が、本作ではウィル、ブリーズ兄弟とケーシーのチームワークが抜群だから、それに注目！

◆近時観た『いつだってやめられる 10人の怒れる教授たち』（17年）はピル強奪のための“列車アクション”が面白かった（『シネマ 42』130頁）が、本作では大量の札束を積み込んだ強盗団の大型トラックと、これを追うウィル、ブリーズ兄弟とケーシーが乗ったトラックとの“トラックアクション”が面白い。

本作のトラックアクションは、“台風目の中”での展開になるが、その背後には台風の眼が去った後の嵐が迫っていたから、このトラック対決もスピードが問題だ。さあ、そんなギリギリの局面の中、ウィルとブリーズはいかなる運転の冴えといかなるアクションのキレを……。

◆本作を観ていると、財務省の紙幣処理施設なるものの存在にビックリ。日本にも財務省の管轄下にこんな施設があるの？もしあるとすれば、その無駄ぶりは本作によって明らかだから、キャッシュレス化に向けて大胆な改革をやる必要があるのでは？

2019（平成31）年1月16日記